(2) 事業･取組の実績

平成２５年度の事業・取組の具体的な内容や効果を、写真、図表等を用いて説明します。なお、関連性の強い事業については、まとめて示しています。

ア 樹林地を守る

1 緑地保全制度等の拡充 ･:事業費のないもの

- 特別緑地保全地区や源流の森の指定面積を、5,000 ㎡以上から 1,000 ㎡以上へ引き下げ、平成 21 年度より運用しています。
- 土地所有者ができるだけ緑地を持ち続けられるよう、新たな緑地保全制度の導入に向けた検討を進めます。

平成 25 年度の実績	＜年度目標＞
管理協定の活用手法について検討を行った	制度案策定

2 篤志の奨励制度 ･:事業費のないもの

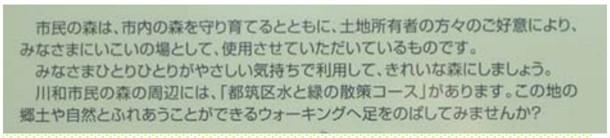
- 樹林地の公開に協力いただいた土地所有者の厚意に対し、謝意を表する看板を設置するなど、顕彰する制度の検討を進めます。

平成 25 年度の実績	＜年度目標＞
土地所有者の厚意に謝意を表する看板の設置等を進めた	推進

市民の森やふれあいの樹林は、緑を保全するとともに、市民の皆さまに憩いの場としてご利用いただくため、土地所有者のご厚意により使用させていただいているものです。

こうした制度の趣旨や、ご協力いただいている土地所有者の方への謝意を表する看板等の設置に、引き続き取り組んでいきます。

【写真】看板の設置例



【写真】看板の掲出文例

3	緑地再生等管理事業	◎:拡充事業 （横浜みどり税一部充当）

- 多様な動植物が生息する健全な森とするため、市民の森等において間伐や下草刈りなどの管理を行ないます。
- 緑地保存地区等における危険樹木撤去や支障樹木の伐採など、樹林地の維持管理に対する助成を行います。
- 市民の森等を安全に利用できるよう、危険斜面の整備などを行ないます。

平成 25 年度の実績		＜年度目標＞
市民の森等の樹林地の手入れや下草刈り	198.7ha（110 箇所）	221.1ha
緑地保全制度に指定している民有樹林地の管理助成	131 件	
市民の森等の斜面地での防災対策工事	６箇所	危険斜面整備

■緑地再生･管理

市民の森等における間伐や下草刈りについて、198.7ha で実施しました。

【【写真】再生管理を行った樹林
（瀬谷区／宮沢ふれあい樹林）

■樹林地維持管理助成

緑地保存地区や源流の森等の緑地保全制度に指定している民有樹林地に対して維持管理費用を 131 件助成しました。

助成制度を利用した方の声

- 倒木時に電線を切断する恐れがあり、周辺の方から心配をされていた樹木の管理作業を行い周辺の方から大変喜んで頂けました。
- 今まで風の強いときは、倒木が発生しないか心配していましたが、維持管理作業を行ったことにより、安心できるようになりました。

■危険斜面整備

対応が必要な危険斜面について、上山・白山特別緑地保全地区（緑区）、大岡三丁目緑地（南区）など６箇所で整備を行いました。

4	市民協働による緑地維持管理事業	◎:拡充事業（横浜みどり税一部充当）

- 樹林地の将来像や維持管理の考え方を定めた「保全管理計画」を、市民との協働で策定します。
- すでに策定した樹林地において計画の検証やモニタリングを実施し、順応的管理（※）を推進しました。

（※）順応的管理…作業の成果を検証し、計画を見直しながら進める管理のこと

平成 25 年度の実績		＜年度目標＞
保全管理計画の策定に取り組んだ市民の森等	策定３箇所	推進

■市民協働による緑地維持管理事業

・樹林地の将来設計である「保全管理計画」を、市民の森愛護会など地域の方々との協働により、策定に取り組みました。

策　定	宮沢ふれあい樹林	瀬谷区
	鯉ケ久保ふれあいの樹林	泉区
	（仮称）新橋市民の森	泉区

【図】エリアごとに定めた保全管理計画
必要な管理作業と指標となる生きものを記載
（泉区/（仮称）新橋市民の森）

・平成２６年度に開園予定の（仮称）新橋市民の森（泉区）では、整備計画と合わせて計画を策定しました。自治会と地元で活動している団体の方を中心に検討会を重ね、エリアごとに目標を立て、必要な管理作業と指標となる生きものなどを学びながら森の将来像をまとめました。

・宮沢ふれあい樹林（瀬谷区）では、愛護会の方々と見学会や検討会を重ね、現在の管理上の課題を共有し、解決に向けて必要な今後の管理作業について計画をまとめました。

【写真】保全管理計画現地見学会の様子
（瀬谷区/宮沢ふれあい樹林）

5	森づくりリーダー等育成事業	●：新規事業（横浜みどり税充当）

- 森の維持管理を進めるため、森に関わる人材育成を進めます。
- 森の手入れ等の管理を行う「森づくりボランティア」、森づくりボランティア団体の運営を担う「森づくりリーダー」、森の生き物観察や普及啓発を行う「はまレンジャー」を育成する講座を行います。

平成 25 年度の実績		＜年度目標＞
森づくりボランティア育成	37 人	40 人
森づくりリーダー育成	22 人	5 人
はまレンジャー育成	42 人	20 人

■森づくりボランティア育成

主に森づくりに関心のある未経験者の方を対象に、森づくりボランティア活動についての基礎的な講義や活動団体の紹介、管理作業を体験する講座を開催しました。

【写真】森づくりボランティア入門講座（管理作業体験／栄区・横浜自然観察の森）

【写真】森づくりボランティア入門講座（活動フィールド紹介／緑区・新治市民の森）

■森づくりリーダー育成

森づくり団体のリーダー向けに、森づくり活動の魅力や課題、安全管理や動植物に配慮した保全管理等にについて、受講者の意見やアイデアを引き出す参加型の研修を開催しました。

【写真】森づくりリーダー研修（中区・横浜市開港記念会館）

■はまレンジャー育成

森の調査体験を通して、現状の植生や森の構造を把握、共有するための手法を学ぶ研修を開催しました。

6 樹林地管理団体活動助成事業

●：新規事業
（横浜みどり税充当）

- 市民の森やふれあいの樹林等で森づくり活動をしている愛護団体の積極的な活動に対して支援を行います。
- 森づくりボランティア（団体）に対して、森づくり活動を自主的、計画的に進めることができるよう助成等支援を行います。

平成 25 年度の実績		＜年度目標＞
市民の森等の森づくり愛護団体への活動支援	道具の貸出：15 団体 研修の開催：20 団体	40 団体
森づくりボランティア（団体）への活動支援	助成金交付：1 団体 道具の貸出：10 団体 研修の開催：52 団体	40 団体

■支援内容

＜団体活動助成の実施＞

団体の積極的な樹林地の魅力や保全の意義を PR する活動に対して、助成を行いました。

＜道具の貸出＞

カマやノコギリ、活動支援として腕章や帽子などの貸出を行いました。

＜研修の開催＞

安全管理としての森づくり活動団体基本研修、救命救急講習会等を実施しました。

【写真】森づくり活動団体基本研修
（中区・横浜市技能文化会館）

【写真】森づくり救命救急講習会
（中区・横浜市技能文化会館）

7 森の楽しみづくり事業

●：新規事業
（横浜みどり税充当）

● 樹林地の魅力や保全の意義を啓発・PR し、市民と森をつなげ、より多くの市民が森の魅力に触れて森に親しみ、楽しみながら樹林地の保全に関心を持つきっかけとなるような、さまざまな体験型事業や情報発信に関する事業を実施します。

平成 25 年度の実績		＜年度目標＞
景観の森・生き物の森事業 ―生態系に配慮した植樹等	2.9ha（1 箇所）	5ha
森の中のプレイパーク事業 ―プレイパークイベント	８箇所（178 人）	1 箇所
森の収穫物体験事業 ―森の収穫物を楽しむ体験型イベント	２１回（871 人）	４回
里山ライフ体験事業 ―里山の自然や文化を体験するイベント	１０回（605 人）	４回
健康の森事業 ―ウォーキングツアー	18 回（395 人）	18 回
横浜の森の自然・生き物情報発信事業 ―ガイドマップ作成	３地域	推進
間伐材活用クラフト作成事業 ―間伐材を活用したクラフト作成イベント	１0回（584 人）	4 回
森の恵み塾事業 ―森への関心を高める講座	83 回（7,034 人）	３拠点で実施

■景観の森・生き物の森事業

安全管理のために伐採を行った市民の森の外周部において、景観性を向上させると共に林内の環境の安定化を図り生き物の生息環境を向上させるため、既存樹木を活用した移植を行い、「林縁環境」の創出に取り組みました。

■森の中のプレイパーク事業

子どもたちが木とふれあい、遊びを通して自然や生き物に対する理解を深め、森林環境を考える心を育てることの出来るプレイパークイベントを、街の中と森の中で実施しました。

＜街の中のプレイパーク＞

会場	区	参加人数
中図書館	中	７人
瀬谷図書館	瀬谷	13 人
神奈川図書館	神奈川	14 人
旭図書館	旭	14 人
都筑図書館	都筑	21 人
栄図書館	栄	12 人
保土ケ谷図書館	保土ケ谷	７人
	【計】７回	８８人

【写真】「街の中のプレイパーク」の様子
（旭区/旭図書館）
・自然観察や遊びを通して、関心のあるものを発見し、図書館で調べもの学習を行いました。

参加者の声

・来年は中学生でできないがまたこれをやってみんなに楽しんでほしい。
・初めて自然について深く学ぶことができたことがよかった。
・葉っぱの形になった虫が葉っぱに成りすましていたことがわかった。

＜森の中のプレイパーク＞

会場	区	参加人数
環境活動支援センター（１回目）	保土ケ谷	37 人
環境活動支援センター（２回目）	保土ケ谷	30 人
環境活動支援センター（３回目）	保土ケ谷	23 人
	【計】 ３回	９０人

【写真】「森の中のプレイパーク」の様子
（保土ケ谷区/環境活動支援センター）
・森の中でネイチャーゲーム等を行い、遊びを通じて自然の楽しさ、自然のつながりを体験しました。

参加者の声

・くぬぎのどんぐりをはじめてみました。
・小学校低学年でも非常に分かりやすい内容でした。親にとっても有意義な時間となりました。
・親子で参加できるイベントで、内容も工夫が多く、たいへんためになりました。

■森の収穫物体験事業

森の恵みを知り感謝の気持ちを育むことを目的に、収穫と活用を体験できる催し等を開催しました。平成25年度は新たに横浜市男女共同参画推進協会との協働により事業を実施しました。

＜横浜市歴史博物館との協働事業＞

横浜の緑について考える機会となるようなワークショップを行いました。

イベント名	参加人数	会場
縄文顔を粘土でつくろう	141人	大塚･歳勝土遺跡公園内工房（都筑区）
縄文ポシェット	64人	
竪穴住居に泊まろう	35人	
恩田川流域の田んぼと新治の里山を訪ねて	14人	
横浜の土偶（2回）	85人	
ぞうり編み（2回）	106人	
凧づくり（2回）	97人	
博物館DEどんど焼	40人	
紙すき（2回）	68人	
横浜の土偶	58人	
【計】 14回	708人	

【写真】「紙すき」の様子
（2月8、9日開催、都筑区/大塚・歳勝土遺跡公園内工房）

＜横浜美術館と男女共同参画センター横浜との協働事業＞

イベント名	参加人数	会場
環境サウンドアート（4回）	84人	舞岡公園、新治里山公園、環境活動支援センター、臨港パーク
みんなで育てる小さなガーデン（3回）	79人	男女共同参画センター横浜
【計】 7回	163人	

参加者の声

- 土に触れたこと、体を使ったことがとても快感でした。（みんなで育てる小さなガーデン）
- 自然の音のやさしさを感じることができて大変良かったです。（環境サウンドアート）

■里山ライフ体験事業

里山の成り立ちや自然と文化を知ることを目的に、里山の生活体験のできる古民家等を活用した体験型の催しを開催しました。

イベント名	会場	区
米作り体験と自然観察（4回）	環境活動支援センター	保土ケ谷
池の掻い堀り	舞岡公園	戸塚
鳥の巣箱作り	天王森泉公園	泉
お月見の会「竹取物語の夕べ」	本郷ふじやま公園	栄
長屋門公園ライトアップ（2回）	長屋門公園	瀬谷
花炭作り	新治里山公園	緑
【計】 10回		

【写真】「池の掻い掘り作業舞岡公園」の様子
（9月28日開催、戸塚区／舞岡公園）

参加者の声

- 初めての体験で池に泥掻きが必要であることも知ってびっくりしました。（池の掻い掘り参加者）
- 自分の手で作品を作り、それを鳥に使ってもらえることは喜びです。（鳥の巣箱作り参加者）

■健康の森事業

森に親しむことにより、樹林地の保全に対する市民の関心・理解を深め、あわせて健康増進を図るため、市民の森等の樹林地をコースに組み込んだウォーキングツアーを、各種団体等と連携し実施しました。

＜ウォーキングツアーの実施例＞

【写真】「戸塚の森で秋を見つける」の様子
（戸塚区/深谷市民の森）

【写真】「新治で里山風景を訪ねる」の様子
（緑区/新治市民の森）

【写真】「鶴見の自然発見ウォーキング」の様子
（鶴見区/東寺尾ふれあいの樹林）

【写真】「つながりの森健康ウォーキング」の様子
（栄区/横浜自然観察の森）

参加者の声

- 横浜とは思えないほどの豊かな森林に感動しました。
- 里山や森を歩いて、自然を満喫できた楽しいウォーキングでした。
- 植物について解説があり、充実したウォーキングでした。季節を変えてまた同じコースを歩いてみたいです。

■横浜の森の自然・生き物情報発信事業

ウォーキングなどの散策にも活用できるよう、近接する市民の森の自然・生き物情報や、距離を示したルート情報を１枚にまとめたパンフレットを、３つの地域で作成しました。

パンフレット作成地域	区
称名寺市民の森、関ケ谷市民の森	金沢
まかさりが淵市民の森、ウイトリッヒの森、深谷市民の森	戸塚
新治市民の森	緑

【左図及び下図】
「新治市民の森」のパンフレット
・森・生き物情報や駅からの案内を表記
・主要な施設を表示

■間伐材活用クラフト作成事業

樹林地の管理作業の際に発生する間伐材を活用することを目的に、主に子どもを対象としたクラフト作成ワークショップ等を開催しました。

イベント名	会場	区
七夕人形作り	権太坂小学校	保土ケ谷
七夕飾りをつくろう（２回）	フォーラムあざみ野	青葉
竹風鈴をつくろう	権太坂小学校	保土ケ谷
子どもアドベンチャー　竹ポックリづくり	児童遊園地	保土ケ谷
竹風鈴をつくろう	山王台小学校	磯子
みんなでつくるあったかクリスマス（２回）	フォーラムあざみ野	青葉
ひょうたんオーナメント	権太坂小学校	保土ケ谷
軽石盆栽づくり	根岸地区センター	磯子
【計】10回		

参加者の声

・緑被率の低さに驚きました。小学校にもこのような内容の授業を行い、知らせるべきです。（子どもアドベンチャー参加者）
・普段できない竹の切り出しが安全にでき、いい経験になりました。（子どもアドベンチャー参加者）
・ボランティアの方々が皆さん親切でよかったです。（子どもアドベンチャー参加者）

■森の恵み塾事業

多くの市民を対象に、森づくりの関心を高め、ボランティア活動への参加の契機となるよう、樹林地の特性を活かした多彩なメニューによる森を知り楽しむ「森の恵み塾」を開催しました。

＜「森の恵み塾」の開催例＞

【写真】
「森を撮ってみよう！親子撮影会」の様子
（保土ケ谷区/環境活動支援センター）

【写真】
「よこはま森の楽校～フェリス女学院大学で
チョウがつなぐ緑のネットワーク調査～」の様子
（泉区/フェリス女学院大学）

【写真】
「実践！環境保全活動」の様子
（栄区/横浜自然観察の森）

【写真】
「森の恵み研究」の様子
（青葉区/美しが丘東小学校）

参加者の声

- 自然を体感する機会があまりないので、子どもに良い経験をさせることができました。
- 身近な自然を再確認することができて、とても有意義でした。
- 普段接することのない、身近な昆虫の存在に気づくことができました。

8 みどりの夢かなえます事業

●：新規事業
（横浜みどり税充当）

● 市内で活動している市民団体から樹林地の保全と利活用に資する提案を募集し、優れた提案の実施を支援することで、市民協働による樹林地の保全を推進します。

平成 25 年度の実績		＜年度目標＞
提案に対する実施の支援	５件	３件

平成 25 年度は、平成 25 年２月より募集を開始、３月 22 日に提案募集を締め切り、５件の事業提案がありました。４月 24 日のみどりの夢かなえます事業懇談会において審査を行い、５件の事業を決定し各団体において実施しました。

	助成事業	団体
1	日吉の丘公園植物観察会及び植物図鑑作り	NPO 法人 自然への奉仕者・樹木医協力会
2	子どもたちの故郷づくり ・竹灯籠の夕べ ・講習会開催	わかぎの会
3	瀬上市民の森サポーターズクラブ ・自然体験行事等の開催	瀬上さとやまもりの会
4	竹楽器ワークショップと 「バンブーミュージックフェスティバル」の開催	NPO 法人 日本の竹ファンクラブ
5	里山再生で生き物たちの多様性と地域にいやしの場を ・森の体験活動、ホタル観察会、参加型イベント、動植物モニタリング調査の開催	‘カーリットの森’を守る市民の会

【写真】竹楽器ワークショップの様子

【写真】森の体験活動の様子

参加者の声

・自分が作った竹灯籠があってうれしかった。（子どもたちの故郷づくり「竹灯籠の夕べ」）
・竹の良さをみんなで伝えられた。大変だったけど上手く演奏できた。
（竹楽器ワークショップと「バンブーミュージックフェスティバル」）

9 間伐材資源循環事業

◎:拡充事業
（横浜みどり税一部充当）

- 市民の森等で活動する森づくり団体が行う管理活動で生じた間伐材をチップ化し、園路に敷く等の活動を支援し、森の手入れを促進します。
- 間伐材の活用方法を学ぶとともに、チップ化作業支援で用いられるチッパーに関する説明や注意事項を学びます。

平成 25年度の実績		＜年度目標＞
森づくり団体への間伐材チップ化作業支援	13 回	推進
間伐材マネジメント研修	1 回（15 人）	
間伐材利活用方法の検討	木質バイオマス利活用調査の実施	

■間伐材チップ化作業支援

実施箇所	区	回数
鯉ケ久保ふれあいの樹林	泉	2
鴨居原市民の森	緑	1
緑地保存地区（能見台東）	金沢	4
茅ケ崎公園	都筑	2
もえぎ野ふれあいの樹林	青葉	2
川井特別緑地保全地区	旭	2
	【計】	13

【写真】
チップ化作業支援の様子
（泉区/鯉ケ久保ふれあいの樹林）

【写真】チップを敷きつめた様子
（泉区/鯉ケ久保ふれあいの樹林）

間伐材チップ化作業支援を利用した森づくり団体の声

・園路に敷きならしたチップによって、園路が歩きやすくなりました。

■間伐材マネジメント研修

会場	区
環境活動支援センター	保土ケ谷

参加者の声

・粗朶柵の実技は手順が今後作業に役立てるのでよかった。

【写真】間伐材マネジメント研修の様子
（保土ケ谷区/環境活動支援センター）

■間伐材利活用方法の検討

・木質バイオマスの利活用に関する調査を実施しました。

10	**愛護会、森づくりボランティア活動拠点整備事業**	◇:新規事業等（横浜みどり税非充当）
11	**ウェルカムセンター整備事業**	◇:新規事業等（横浜みどり税非充当）

- 市民の森等の愛護会や森づくりボランティアの活動が活性化するよう、活動拠点を整備します。
- 市民が気軽に立ち寄り、森の散策情報やイベント情報等が得られるなど、市民が森を利用しやすい機能を備えたウェルカムセンターを整備します。

平成 25 年度の実績		＜年度目標＞
【10 愛護会、森づくりボランティア活動拠点整備事業】		
森づくり団体の活動拠点の整備	２箇所	２箇所
【11 ウェルカムセンター整備事業】		
ウェルカムセンターの展示設置等	３箇所	３箇所

■愛護会、森づくりボランティア活動拠点整備事業

・整備：瀬谷市民の森（瀬谷区）、
　　　鴨居原市民の森（緑区）

■ウェルカムセンター整備事業

多くの市民や子供たちが森を知り楽しめるよう、舞岡ふるさと村虹の家、寺家ふるさと村四季の家、環境活動支援センターの展示物を充実させる整備をしました。

・整備：舞岡ふるさと村虹の家（戸塚区）、
　　　寺家ふるさと村四季の家（青葉区）、
　　　環境活動支援センター（保土ケ谷区）

【写真上段】
舞岡ふるさと村虹の家（戸塚区）
【写真中段】
寺家ふるさと村四季の家（青葉区）
【写真下段】
環境活動支援センター（保土ケ谷区）

12	特別緑地保全地区指定等拡充事業	◎：拡充事業（横浜みどり税一部充当）

- 市内に残る貴重な緑地を保全するため、緑地保全制度による地区指定を積極的に進めます。
- 特別緑地保全地区の指定地等で、不測の事態による買取りの希望などに対応し、緑地を確実に担保します。

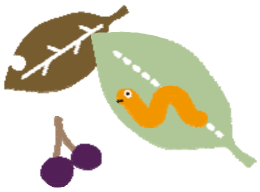
平成 25 年度の実績		＜年度目標＞
緑地保全制度による新規指定等	109.7ha	100 ha
不測の事態による買取希望等への対応	18.7ha	約 36 ha

■樹林地の新規指定【詳細】

制度	新規指定等	
	面積	地区詳細
近郊緑地特別保全地区	28.6ha	大丸山地区（金沢区、栄区）28.6ha（拡大指定）
特別緑地保全地区	39.3ha	神大寺二丁目地区（神奈川区）0.8ha、三枚町地区（神奈川区）2.7ha、菅田町出戸谷地区（神奈川区）0.4ha、菅田町堀上地区（神奈川区）0.7ha、芹が谷五丁目地区（港南区）0.5ha、今井町根下地区（保土ケ谷区）0.3ha、上菅田町金草沢地区（保土ケ谷区）0.9ha、上菅田町笹山地区（保土ケ谷区）1.3ha、上菅田町寺下橋地区（保土ケ谷区）2.2ha、川島地区（保土ケ谷区）1.3ha（拡大指定）、市沢町地区（旭区）2.0ha、追分地区（旭区）2.6ha（拡大指定）、柏町地区（旭区）1.9ha、上川井町中田谷地区（旭区）3.1ha、鶴ケ峰二丁目地区（旭区）0.6ha、峰地区（磯子区）1.2ha、御伊勢山・権現山地区（金沢区）0.9ha（拡大指定）、新吉田町地区（港北区）1.5ha、綱島地区（港北区）3.2ha、鴨居四丁目地区（緑区）0.4ha、 西八朔町藤林地区（緑区）1.1ha、恩田東部地区（青葉区）4.4ha、池辺町滝ケ谷戸地区（都筑区）3.2ha、池辺町八所谷戸地区（都筑区）1.4ha、汲沢四丁目地区（戸塚区）0.7ha
市民の森	4.8ha	今井・境木地区（保土ケ谷区）2.1ha 【既指定地区の拡大指定】計 2.7ha
緑地保存地区	8.5ha	28 件　8.5ha
源流の森保存地区	18.4ha	41 件　18.4ha
寄附緑地等	10.1ha	【寄 附 緑 地】9.6ha、【建築物緑化保全】0.3ha 【農園付公園】0.2ha
【合計】	109.7ha	

■樹林地の買取対応【詳細】

制度	地区	区
特別緑地保全地区、近郊緑地特別保全地区	北寺尾七丁目地区	鶴見区
	駒岡・梶山地区	鶴見区
	馬場二丁目地区	鶴見区
	三枚町牛道根地区	神奈川区
	菅田町出戸谷地区	神奈川区
	菅田町堀上地区	神奈川区
	権太坂地区	保土ケ谷区
	市沢町地区	旭区
	柏町地区	旭区
	上川井町中田谷地区	旭区
	大曽根台地区	港北区
	池辺町滝ケ谷戸地区	都筑区
	池辺町八所谷戸地区	都筑区
	川和地区	都筑区
	飯島町地区	栄区
	大丸山地区	栄区
	公田・荒井沢地区	栄区
	野七里地区	栄区
市民の森等	追分地区	旭区
	峯地区	磯子区
	新治地区	緑区
	舞岡地区	戸塚区
	荒井沢地区	栄区
【合計】	２３地区、18.7ha	



【写真】大丸山近郊緑地特別保全地区（栄区）

【写真】恩田東部特別緑地保全地区（青葉区）

13 よこはま協働の森基金制度の見直し　・事業費のないもの

● 市民に身近な小規模樹林地を、市民と行政との協働で取得し保全する「よこはま協働の森基金制度」について、より活用される制度とするため、制度を一部改正し、平成23年度より運用を開始しました。

平成25年度の実績	＜年度目標＞
適用条件の緩和を中心に見直し改正した制度で運用	制度運用 （平成22年度制度改正）

■「よこはま協働の森基金事業」の概要

○よこはま協働の森基金事業とは

市民に身近な小規模樹林地を市民と行政との協働により保全するため、「横浜市協働の森基金」を創設し、市民の皆さまが自主的に集めた資金と「基金」からの拠出金とを合わせ、樹林地を取得する制度です。一団のまとまりのある良好な樹林地が対象です。

○市民の皆さまの活動

・身近な樹林地の保全を発意し、土地所有者の方々から売却の承諾を得ます。
・募金活動を行い、取得費用の1割以上（上限あり）を集めます。
・取得後、樹林地の日常的な管理を行います。

【写真】
保全された樹林地（金沢区）

■見直しの背景

制度の導入以来、実績が1箇所に止まってきたことから、より活用される制度とするため、制度の見直しを行い、平成23年度より運用を開始しました。

■改正内容の比較

項目	改正前	課題	改正後
樹林地の面積基準	1,000 ㎡以上 5,000 ㎡未満	買取制度のある特別緑地保全地区の面積基準を、平成21年度に1,000 ㎡に引き下げたことで、面積基準が重複したことや、小規模樹林地の保全に対応すること	300 ㎡以上 1,000 ㎡未満
	一団が5,000 ㎡以上の大きな樹林地は対象外	面積基準を超える大規模な樹林地の一部は、事業の対象としない	1,000 ㎡以上の樹林地の一部（300 ㎡～1,000 ㎡）も対象
取得費用	取得費用の1割以上を住民団体が負担	取得価格が高額な場合、取得に当たり住民団体の負担感が大きい	取得費用の1割以上を住民団体が負担し、上限額を500万円とする
	・住民団体の負担金 ・「横浜市協働の森基金」からの拠出金	取得財源は、住民団体の負担金と基金からの拠出金のみで、他の財源が導入できない	現行に加え、国費等の他の財源も導入を可能とする
取得後の維持管理	住民団体が主体の維持管理	取得後の維持管理における住民団体の負担感がある	住民団体は、日常的な管理に限定する

14 国への制度要望

・:事業費のないもの

● 相続税の納税対象に緑地が含まれる場合は、緑地の保全を優先すること、また、緑地保全等に係る税制上の負担軽減措置の創設・拡充等を国に対し要望しています。

平成 25 年度の実績	＜年度目標＞
緑地保全につながる制度の創設・拡充について、６月、８月に要望を実施	推進